

報告

パブリックアートによる  
「オアシス篠栗活性化プロジェクト 2023」

**P11-13**

黄 禧晶

HWANG Hei Jeong

造形芸術学科

# I. インスタレーションによる空間研究

代表研究者：黄 禧晶（九州産業大学造形短期大学部教授）  
 共同研究者：田 承嫻（九州産業大学芸術学部教授）  
 協力：韓貞娥（九州産業大学造形短期大学部非常勤講師）

- ◆研究領域：パブリックアートによる地域活性化（共同研究）
- ◆研究プロジェクト概要  
 産業経営研究所基礎研究部合同研究プロジェクト
- ◆場所：糟屋郡篠栗町中央1丁目9-2総合福祉センター  
 オアシス篠栗
- ◆研究におけるプロセス
  - ・2月にプロジェクトを立案し産業経済研究所の基礎研究費を申請する。
  - ・4月に研究費を獲得し、数回の現地打ち合わせを行い、プロジェクトの計画を練っていく。
  - ・5月～6月に作品の制作を行う。
  - ・7月完成した作品のデータを編集・加工し、布に印刷する。
  - ・8月28日にインスタレーションの設置完了
  - ・11月2・3日KSU VISION DAYに出展する。
  - ・12月に現地にパネル設置後フィードバックを行う。

今回の研究プロジェクトは糟屋郡篠栗町「オアシス篠栗」の温浴再生計画に九州産業大学造形短期大学部・九州産業大学が協力し、老朽化した銭湯の環境改善を図るためのプロジェクトである。オアシス篠栗は利益中心の施設ではなく、地域に根付いた銭湯を目指しての再生を図ってR5年の4月にリニューアルオープンした。よって、より清潔で安心できる場に、コロナ禍で一度離れてしまったお客さんに清潔で話題性を含む地域の銭湯に再び来てもらいたいという趣旨でこのプロジェクトの企画に至った。

インスタレーションのアートのテーマは「癒し・篠栗の自然」である。本研究者や本学の非常勤講師、芸術学部の教員、九州産業大学造形短期大学部学生4人、九州産業大学芸術学部生5人、大学院生1人の作品を提供して貰った。全部で20枚の作品を透け感のある布に印刷・加工して設置・展示した。

今後、芸術で彩られた空間として、アートにちなんだ特徴ある観光名所として定着することを期待する。尚、一般の方の作品などの展示も視野に入れてプロジェクトを広げていきたい。

## パブリックアートによる「オアシス篠栗活性化プロジェクト2023」 —インスタレーションによる空間研究—

### 1. 研究領域

今回のプロジェクトの目的  
**パブリックアートによる地域活性化**

### 2. 研究におけるプロセス

- 2月 プロジェクトを立案、産業経済研究所の基礎研究費を申請
- 4月 研究費を獲得、数回の現地打ち合わせを行い、プロジェクトの計画を練る
- 5-6月 作品の制作
- 7月 完成した作品のデータを編集・加工し、布に印刷
- 8月 **28日、インスタレーションの設置完了**
- 9月 広報とフィードバック

### 3. 研究プロジェクト概要

代表研究者：黄 禧晶（九州産業大学造形短期大学部教授）  
 共同研究者：田 承嫻（九州産業大学芸術学部教授）  
 協力：韓貞娥（九州産業大学造形短期大学部非常勤講師）

糟屋郡篠栗町「オアシス篠栗」の温浴再生計画に本学が協力し、老朽化した銭湯の環境改善を図るためのプロジェクトである。オアシス篠栗は利益中心の施設ではなく、地域に根付いた銭湯を目指しての再生を図ってR5年にリニューアルオープンした。大幅な改修が行なわれたため、脱衣場などの壁の汚れや壁紙の剥がれなどの再オープンになってしまった。よって、より清潔で安心できる場に、コロナ禍で一度離れてしまったお客さんに清潔で話題性を含む地域の銭湯に再び来てもらいたいという趣旨でこのプロジェクトの企画に至った。

脱衣所2カ所にインスタレーションのアート作品を設置して、明るくて和めるイメージの場所にする。テーマはオアシス篠栗側の要望に応じて「癒し・自然」に絞って作品を制作した。造形短期大学部からは代表研究者の黄、非常勤講師の韓貞娥、学生4名が原画制作を行なった。芸術学部からは合同研究員の母教授、芸術学部学生5名、大学院生1名が原画制作を行なった。全部で20枚の作品のデータを編集した後、透け感のある布に作品を印刷・加工して設置のインスタレーションを行う。完成した20枚のインスタレーション作品をオアシス篠栗の「虹のゆ」の脱衣所2箇所に設置した。

今後、芸術で彩られた空間を通して話題性を呼び起こし、短期のプロジェクトで終わるのではなく、継続するプロジェクトとして広げていくことを目標とする。尚、アートにちなんだ特徴ある観光名所として定着させて町の経済効果を引き起こすことに貢献する。

### 4. 作品を提供・協力した学生

九州産業大学造形短期大学部  
2年生  
 田代 楓華 和田 尊希  
 森山 唯 廣田 ゆう

芸術学部  
3年生・1年生・大学院生  
 梅野 沙良 松隈 晴美  
 山下 かれん 山本 沙奈  
 小松 三由貴 朱 温華

## Ⅱ. オアシス篠栗リラックスルーム及びロビーの空間改善研究

研究者：黄 禧晶

(九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科教授)

◆研究領域：パブリックアートによる地域活性化

◆場所：糟屋郡篠栗町中央1丁目9-2総合福祉センター  
オアシス篠栗

◆研究におけるプロセス

- ・令和4年12月にオアシス篠栗から依頼を受ける。
- ・奨学寄付金を獲得する。
- ・以降現地打ち合わせを数回行い、制作箇所を選定する。
- ・7月同施設で並行して行う他プロジェクトとすり合わせをしながら原画デザインを決める。
- ・7月に入り口の「華の湯」、「虹のゆ」の看板及び、ロビーに設置する「九大の森」の作品を制作する。
- ・8月28日にオアシス篠栗で上記作品を設置する。
- ・8月28日にリラックスルームの襖とブラインドに作品を制作する。
- ・11月2・3日KSU VISION DAYに出展する。
- ・12月に現地にパネル設置後フィードバックを行う。

◆研究プロジェクト概要

糟屋郡篠栗町「オアシス篠栗」の温浴再生計画に九州産業大学造形短期大学部が協力し、老朽化した銭湯の環境改善を図るためのプロジェクトである。本研究は同時期に行う産業経営研究所基礎研究部合同研究プロジェクトから拡張し、リラックスルーム及びロビーの空間環境改善を図る目的で、老朽化が目立つ襖やブラインドにアートを制作した。尚、既存のお風呂の入り口の「華のゆ」や「虹のゆ」の看板をアートに近い華やかなものとして差し替え、若い年齢層にも受けられるように工夫している。入浴客以外も買い物客も利用する総合福祉センターのロビーには篠栗町の代表的な名所である九大の森をイメージとした絵画作品(M60号)を本研究者が制作して展示した。この研究プロジェクトにより、オアシス篠栗全体がアートの力で新しい空間としてリニューアルされ、幅広い年齢層の利用客が楽しめることが期待される。



### パブリックアートによる 「オアシス篠栗活性化プロジェクト2023」

オアシス篠栗リラックスルーム及びロビーの空間改善研究

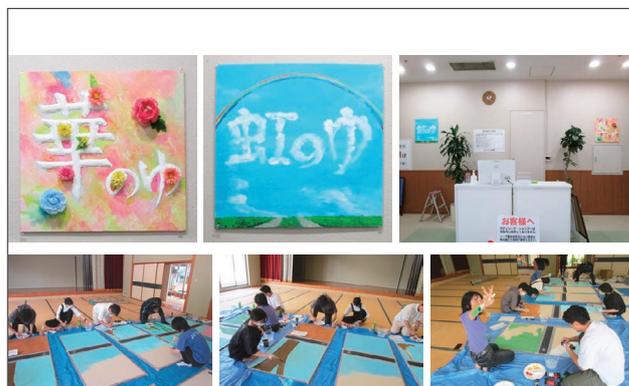
#### 研究プロジェクト概要

糟屋郡篠栗町「オアシス篠栗」の温浴再生計画に九州産業大学造形短期大学部が協力し、老朽化した銭湯の環境改善を図るためのプロジェクトである。本研究は同時期に行う産業経営研究所基礎研究部合同研究プロジェクトから拡張し、リラックスルーム及びロビーの空間環境改善を図る目的で、老朽化が目立つ襖やブラインドにアートを制作した。尚、既存のお風呂の入り口の「虹のゆ」や「華のゆ」の看板をアートに近い華やかなものとして差し替え、若い年齢層にも受けられるように工夫している。入浴客以外も買い物客も利用する総合福祉センターのロビーには篠栗町の代表的な名所である九大の森をイメージとした絵画作品(M60号)を制作して展示した。この研究プロジェクトにより、オアシス篠栗全体がアートの力で新しい空間としてリニューアルされ、幅広い年齢層の利用客が楽しめることが期待される。

■研究者  
黄 禧晶 (九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科教授)

■研究領域  
パブリックアートによる地域活性化

■プロジェクト実施日  
令和5年8月に「虹のゆ」、「華のゆ」の看板及び絵画作品制作  
令和5年8月28日に襖やブラインドアート制作



プロジェクトに協力した学生—九州産業大学造形短期大学部2年生

角 愛理 谷川 那木 利倉 野乃花 野崎 修斗 東尾 風土  
菊田 高斗 日野 桃華 森山 竜 和田 晴音 平田 遥香

